

東京天台

平成二十五年
春 彼 岸 号

発 行 所
天台宗東京教区

杜多徳雄
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481

<http://www.tendaitokyo.jp/>

寺院と幼稚園教育

〱 童子を打たずんば 〱

伝教大師は、ご遺戒(遺^{ゆい}戒^{かい})弟子たちへのご遺言の中で、国の宝である子ども達を大事にするよう戒めた。現在教区内寺院では幼稚園が七園と保育園が二園あるが、今号では、この大師の精神を根本に幼稚園を運営している、世田谷の「永安寺学園幼稚園」に話を聞いてみた。

ののさまに

「永安寺学園幼稚園」は、寺との関係を保護者・地域の人に意識してもらうために、園舎に本尊様をお祀りし、ホール玄関には向拝をデザインし、正門上には白象に乗った「釈尊誕生仏」を道路からも見えるように祀っています。園名も「永安寺学園幼稚園」としています。



園児は登園すると、身支度を整えてから園ホールのご本尊様を毎日お参りします。先生の指導で「今日一日、ののさま(仏さま)に守られて仲良く元気で過ごせますように」等々の願いを込めてお参りします。昼食等では、合掌をして「ののさまいいただきます」と唱えてから食事を始め、合掌して「ごちそうさまでした」で食事を終えます。

毎週月曜日は、全員がホールに集まって「集会(しゅうえい)」を行います。「最澄さま」「ののさまに」「のんののののさま」等の仏教賛歌を全員で歌います。ご本尊さまへの献香・献華・献水を園児代表が毎週交代で行います。園長が仏

教や天台宗に関する話を10分位園児全員にします。3、4、5歳の約370名程の園児は私語もなく聞いてくれます。保護者からは「集会で園長先生がなさった仏教のお話などを、子どもが話してくれそうです。子どもから何かと教えられると思います。お寺の幼稚園に入って良かったです」等の感想を担当に話して聞いているようです。子どもたちはしっかりと聞いてくれることを実感します。

行事を通して

当園では仏教行事として花まつり・成道会・涅槃会(ねはんえ)を行います。例えば、釈迦様の誕生日の「花まつり」では、各家庭から花を持ってきてもらって花御堂(はなごとう)を飾り、甘茶をかけてお参りしたり、甘茶を園児や保護者もいただきます。

年末には、園児全員がご本尊様に一年間無事であったお礼をするために、寺への参拝を行います。園児全員が本尊様への感謝の心を込めたプレゼントを先生指導で制作して、それを一年間お供えします。



よく遊び、学ぶこと

幼児だから話しても無駄だ、走り回ったりするのは仕方がないと思われがちですが、そうではありません。年令に即したメリハリのある教育や躰を行えば、幼児だからこそ本来持っている能力を最大限引き出せます。幼稚園は幼児にとって家庭の延長であり、社会生活の第一歩です。「遊び」は幼児にとって一生の財産です。この遊びを重視して、深い愛情の基に正しい規律ある集団生活に適応するように教育するとともに、個性・能力を旺盛な知性・理性の欲求に応じて存分に発揮させることが重要です。

生後5年目までで、言語・学力・習慣の社会的、情緒的な発達の基本盤が出来上がります。5歳以降でも発達の窓が閉じるわけではありませんが、時期を逸すると「追いつく」事がとても大変であり、あの時あしておけば良かったと悔やむことにもなります。この時期に、宗教情

操教育をして畏敬の念等の宗教心を育む事が大切であると思います。

国の宝

園歌に「明るく、楽しく、仲良くあそぶ仏の子。みんな、みんな宝物」と謳って、教職員・保護者共々に、大切な家庭や社会、ひいては国の宝である幼児を「仏の御子」として受け止めています。そして仏教情操教育を中心にして、集団の中で、年令にあった教育・躰を的確に行い、「尊敬なるもの」に対しての敬虔な気持ちを養い、お互いの生命がふれ合って生活していることを自覚し、感謝の心の持ち主になるように幼稚園教育を行っています。

宗教と教育
公立の学校ではこの二つは自然なまでに切り離されている。しかし、完全に宗教的な発想の無い教育や躰

というものは成り立つのだろうか。成人してからでは身につけがたい、他者や自然への畏敬の精神等、仏教幼稚園に求められる役割は大きいのではないだろうか。



永安寺 本堂

第48回
天台青少年
比叡山の集い
参加者募集
平成25年8月2日(金)
~8月5日(月)
於 総本山 比叡山延暦寺
参加費:無料
※中学生であれば、誰でも参加可能
お申し込み、お問い合わせは、東京教区宗務所
か菩提寺まで

仏教豆知識 ④ 『お香について』

皆さんが日々お仏壇にお参りする際や、法事・墓参などの時に、香華を手向けることと思います。

そもそもお香はインド古来の風習で、薰じたり(焼香・薫香)、体に塗ったり(塗香)して臭気を取り除き、芳香に包まれた日常を送るためのもので、お釈迦さまの頃には既に存在していたようです。

『法華経』には、仏を供養するさまざまなもの(十種供養)が説かれ、その中にも「華・香」とあり、お供えにこれらは必要不可欠です。

お香は、私たちの身心やその空間を清浄にしてくれます。これは何も仏教的な意味合いに留まらず、科学的にはお香の香りに包まれることで、脳内に心地良さをもたらす物質が分泌され、癒しの効果があるとされています。で、匂いや煙を敬遠せずにより良い芳香のものをお供えしていただけたらと思います。

皆さんが、仏さまと向き合い、香華を手向けて手を合わせるその時、それぞれの心情があるとは思いますが、心中には人知れず何かスツとするようなものがあるのかもしれない。

時折、お線香は何本？お焼香は何回するの？といった質問を受けますが、そういった数量を気にする必要はさほどないように思います。何より大切なことは、仏さまやご先祖さまを至心に供養する気持ちです。

お香そのものの形や色はやがて灰となり、立ち昇る香煙は、次第に目に見えなくなり。つまり、お香は私たちに「無常観」を説いているのです。落ち着いて身心共に清浄な状態で仏さまを念ずる、今の心が肝要です。



私たちの心に多くの傷跡を残した東日本大震災から丸二年が経とうとしていきます。復興は遅々として進まず、未だに多くの被災者が仮設住宅で生活しています。この間の対策に疑問を持たれた政権与党は先般の選挙で大敗して再び政権交代がなされ、この国の新しいリーダーが選ばれました。

事態の中、年貢米を保管する隅田川沿いの米倉に火がついたとの報が入ると、すかさず「飢えた者が米倉から持ち出した米を取るのには勝手次第」と触れを出し、被災者を火消しに転じさせ、持ち出された蔵米が救助米となるという二石一鳥の策を打ちます。また江戸の復興にあたっては、武家政権の象徴である

「現代社会と仏教」

保科正之の精神に学ぶ

このような現状の中「理想のリーダー像」として筆者が思い浮かべるのは、江戸時代最大の火災「明暦の大火」(江戸市街の大半を焼失し)説には十万人を超える死者を出したと言われる大災害)で、強いリーダーシップを発揮した、初代会津藩主であり四代将軍家綱の後見役でもあった「保科正之(ほしなまさゆき)」です。

正之は江戸城の天守閣が焼け落ちるといふ非常事態の中、年貢米を保管する隅田川沿いの米倉に火がついたとの報が入ると、すかさず「飢えた者が米倉から持ち出した米を取るのには勝手次第」と触れを出し、被災者を火消しに転じさせ、持ち出された蔵米が救助米となるという二石一鳥の策を打ちます。また江戸の復興にあたっては、武家政権の象徴である

天守閣を再建せず、主要道路の幅や河川の拡張、火除け空地(広小路)や両国橋等の設置など、当時の常識であった軍備よりも、市民の利便性を重視した復興策を進めます。

一方、領国である会津藩では、飢饉時対策として藩が米を備蓄する「社倉」制度、九十歳以上の高齢者に扶持米を支給する、いわば養老年金制度や救急医療制度等を創設し、領民が親や子供を大切にし、安心して暮らせる世の中を目指しました。

正之のエピソードから、宗祖・伝教大師の「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」という言葉が思い出されます。自分のことは後にして、まず人に喜んでいただくことをする、それは仏さまの行いで、そこに幸せがあるのです。：それがこの言葉の精神ではないですか。

第43回 一隅を照らす運動 東京大会

平成25年6月14日(金)
午後1時 開会

会場 浅草公会堂

法要

大導師 輪王寺門跡 門主 神田秀順大僧正
天台宗東京教区寺院・天台声明音律研究会
天台雅楽会・叡山講福聚教会

講演

聖路加国際病院 小児総合医療センター長 細谷 亮太 氏
演題 「今、伝えたい『いのちの言葉』」



細谷亮太 氏 プロフィール

1948年、山形県生まれ。東北大学医学部卒業後、聖路加国際病院小児科に勤務。小児がんが不治の病だった70年代にテキサス大学総合がん研究所に3年間赴任し、最先端の医療を学ぶ。帰国後に聖路加国際病院小児科に復職。小児科部長として小児がんの子供たちの治療にたずさわると同時に、子供たちとのキャンプ活動や執筆活動にも取り組む。俳人としても旺盛な活動を行う。専門は小児血液・腫瘍学、小児保健など。
著書に「今、伝えたい『いのちの言葉』」(佼成出版社)「川の見える病院から」(岩崎書店)「医師としてできることできなかったこと」(講談社)「いつもいいことさがし」(暮らしの手帖社)などがある。

天台の寺めぐり 35

昭島市周辺

築当山 眞覺寺

当山の開創は慶長年間（1600年前後）と伝わる。文化八年（1811）に多摩川の大洪水により、河畔より築地村一村と共に現在地に移った。一説に山号はこの旧村の名前でもある築地山とも言ふ。この水難の際に、本尊阿弥陀如来座像、目黄不動明王、阿弥陀如来立像と二部の墓石等以外は流失したため開基・開創は不明である。



眞覺寺 本堂

近年になり本堂・不動堂・客殿を始めとした伽藍の整備が行われ、写経会・坐禅会等の集

高田山 寶積寺

南に多摩川が流れ、西には富士山を望む高台に当寺は位置している。かつて寺の周りは田畑が広がる農村地帯であったが、寺と多摩川の間には新興多摩街道が通ったことにより、急速に都市化が進み、現在では寺の周りには住宅が立ち並び、登下校する子どもたちの声が聞こえてくる。また寺の境内のすぐ脇には郷地稲荷神社が立



寶積寺 本堂

ち、この地の信仰の中心であることが判る。

元和宝曆年間に二度の火災があり、資料が焼失したため由緒は不詳である。現在では境内に入ると正面に薬師如来を祀る本堂と庫裏が立ち、左側には観音堂が立つ。この観音堂は他所より移築されたものであるが、堂内には七観音が祀られ静かに人々の願い事を聞いてくださっている。

大上山 観音寺

往昔は東勝寺と称し、旧境内から出土の石板碑が延文元年（1356）であり、北朝時代に開山と推定される。

永禄十二年（1569）に武田軍勢が滝山城攻撃の際、消

失した。慶長八年（1603）に源朝臣家康公が東国下向の際、寺院再興の辛苦を聞き、廣繁（当山再興第二世）を馬前に召され、本尊観世音の靈験を以て悲願成就せしむべく助成を蒙るに至る。而して寺院を現今の地に移し、寺号を観音寺と改めた。

銀山奉行の大久保石見守長安は、八王子滞在の砌、手代の秋山神右衛門に家康公の内意を達せられ、慶長十年（1605）本堂に落成したと棟札に明記されたところがある。



観音寺 本堂

間六間、庫裏は四間半十間、客殿は八間六間半であった。